2017年11月30日　B班　坂本海人

山家悠紀夫『景気とは何だろうか』岩波新書 2005年
第3章　戦後日本の景気循環（1）

疑問点・論点

「バブル景気という異常な好景気、その反動不況、その後の緩やかな回復という過程を経て、1996年末から97年にかけて、日本経済はようやく『振り出しに戻った』のである。」（101頁）とあり、3年後に迫った2020年の東京オリンピックによる経済効果は20兆円とも言われている。東京オリンピックのあと、過去に起こったような反動不況にならないようにするためにはどのような方法があるか。

A
従来のデータを参考にして、金融引き締めを慎重に行う。
土地の買占めを防ぐために、買収量に制限をかける。
C
設備投資をしすぎると、反動が大きくなるので、施設を新しく作らずに既にある施設を活用する。
D
民宿などを使って、既にある宿泊施設を有効活用することで、オリンピック後の影響を少なくする。
地方に競技会場を作って、オリンピック後も競技場として有効活用する。
B
潜在成長率を高める。
消費行動を抑える。（2019年までに消費税増税などする）
無駄のないよう、オリンピック後の見通しを持った建設を行う。
オリンピック後、規制緩和をして企業がお金を借りられやすくする。

グループ間の討論

A→B
　潜在成長率を具体的に
　⇒人口を増やし、労働力を高める。
C→B
　規制緩和する際の財源はどこから？
　⇒規制緩和→企業がお金を借りる→儲かる→消費行動が増える→財源が増える
D→A
　買収量の制限とはどういう風に？
　⇒国が主体となって行う。
B→A
　従来のデータとは具体的に
　⇒従来の地価の変動のデータを参考にする。